



第13週の発生動向(2005/3/28~2005/4/3)

1. インフルエンザについては、青森県内すべての保健所管内において**警報**が継続していますが、減少傾向にあります。
2. 感染性胃腸炎については、青森保健所管内の36人、弘前保健所管内の84人、むつ保健所管内の53人と増加傾向にあるため引き続き注意が必要です。
3. A群溶血性レンサ球菌咽頭炎が弘前保健所管内において**警報**が出され、注意が必要です。

第13週五類感染症定点把握

保健所名 疾患番号・疾患名	青森		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数 (前週からの増減)
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	
(72) インフルエンザ	200	15.38	221	13.81	245	17.50	150	21.43	309	34.33	185	30.83	1310	20.15	-514
(60) 咽頭結膜熱			2	0.20							2	0.50	4	0.10	3
(61) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	23	2.88	48	4.80	8	0.89	2	0.40	12	2.00			93	2.21	18
(62) 感染性胃腸炎	36	4.50	84	8.40	3	0.33	8	1.60	11	1.83	53	13.25	195	4.64	30
(63) 水痘	18	2.25	7	0.70	20	2.22	1	0.20	9	1.50	2	0.50	57	1.36	16
(64) 手足口病	2	0.25	1	0.10			1	0.20	6	1.00	1	0.25	11	0.26	4
(65) 伝染性紅斑	1	0.13			6	0.67							7	0.17	-1
(66) 突発性発しん	1	0.13	4	0.40	1	0.11	2	0.40	1	0.17	4	1.00	13	0.31	-2
(67) 百日咳															
(68) 風しん					1	0.11							1	0.02	±0
(69) ヘルパンギーナ															
(70) 麻しん(成人を除く)															
(71) 流行性耳下腺炎	2	0.25	1	0.10	4	0.44	2	0.40	2	0.33	1	0.25	12	0.29	-1
(73) 急性出血性結膜炎															
(74) 流行性角結膜炎							1	1.00	3	1.50			4	0.36	-3

保健所名	定点数				
	インフルエンザ (内科+小児科)	小児科	内科	眼科	基幹
青森	13	8	5	2	1
弘前	16	10	6	3	1
八戸	14	9	5	2	1
五所川原	7	5	2	1	1
上十三	9	6	3	2	1
むつ	6	4	2	1	1
合計	65	42	23	11	6

■ は警報 ■ は注意報 「空欄」: 患者発生数0

表 以外の感染症法対象疾患 (17年計には、今回届出された人数を含む)

(82) マイコプラズマ肺炎(五類基幹定点把握疾患) 八戸保健所管内: 4人 (17年計 31人)

感染症の窓

感染性胃腸炎 - Norovirus -

ノロウイルス(NV)感染による高齢者の死亡事例が昨年報道され、全国一斉に集団施設の衛生管理体制が問題とされています。ノロウイルスの特徴として、次の3つの感染様式が考えられます。

- NVに汚染された生カキ喫食
- NVに汚染された糞便あるいは吐物による食品の直接汚染
- NVに汚染された糞便あるいは吐物が生活環境を汚染し、これらへ接触による二次感染などです。

本県では、平成16年4月から6月までに12事例の集団発生があり、平成17年の第13週において感染性胃腸炎散発患者が717名と増加していることから、今後の動向に注意が必要です。また、特に高齢者施設や学校などの集団施設においては、手洗いの励行や汚物(糞便、吐物など)の処理を素手で行わないようにしてください。

参考文献: 臨床とウイルス,32(3)189-194,2004.

平成16年 NV患者数及び集団事例数

